

第116回紫紺倶楽部

新聞広告で戦後昭和を見る・その2

昨年は昭和20年代を取り上げ、終戦の翌日の新聞に広告は載っていたか?という質問からスタートしました。2回目の今回は、「新聞広告の黄金時代」です。

復興の20年代から高度成長の30年代へ、そんな時代を反映して新聞広告は質量ともに大きく飛躍しました。もっとも、紫紺倶楽部では〇〇広告賞の受賞作品をご紹介したり、著名コピーライターを羅列したり・・・はいたしません。

主催者が小学校中学年から高校三年までの時代、新聞広告は勢いがあり、荒削りながら注目される存在だったのです。

企業は順調に成長を続け、後半の数年間アジア発となる念願のオリンピック開催に沸きました。公害も石油ショックも無縁の10年間だったのです。そんな日々、明るい明日を描いてみせてくれたのが新聞広告でした。夢の家庭電化の実現も、マイカーの普及も、新聞広告が大きな力になったことはご記憶のことでしょう。

例の如く、新聞の縮刷版の閲覧からはじめて、気になる広告はコピーを取ってみました。五十数年が経過してみると、華々しく活動して企業が消えたり、反対に無名に近かった会社が大変身を遂げた例もみられます。

テレビに広告費ランキングの首位を奪われる前の時代「黄金の昭和30年代」をさまざまな視点から選んだ広告で振り返ってみましょう。十分にお楽しいいただけると自負しております。

会 場	明治大学（駿河台キャンパス）リバティタワー 1012教室
日 時	3月6日（日） 13時30分開場 14時00分開演
スピーカー	嶋丈太郎（紫紺倶楽部主催者）
入 場 料	2,000円（税込）
主 催	オリオンプロモーション
協 賛	カゴメ株式会社

オリオンプロモーション
代表 嶋 丈太郎（星名 登）

お問い合わせは 携帯090-1702-5076
☎&FAX03-3689-9732

紫紺倶楽部まで